

1 考慮に入れる主な事柄

歴史性、位置付け	従来からの役割	周辺のまちづくりの動向	第2次まちづくり戦略ビジョンの位置づけ	公園に求められる社会的要請
<ul style="list-style-type: none"> ○ 明治20年（1887年）に「中島遊園地」として整備 ○ 明治40年（1907年）長岡安平が「池泉回遊式」の庭園として設計 ○ 北海道博覧会、国民体育大会の会場となるなど、時代に即した整備を実施 ○ 平成の再整備では、豊かな緑地空間として芸術・文化の拠点を形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都会の喧騒から一線を画すみどり豊かな憩いの空間 ○ 藻岩山への優れた眺望である景観軸 ○ 芸術・文化が感じられ、体験できる空間 ○ さっぽろまつりなど多く人々が訪れるイベントが開催される賑わいの空間 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園に隣接する民間ホテル敷地にMICE施設の整備構想 ・ 質の高い宿泊機能の誘致 ・ アフターMICEや夜間観光の魅力向上に資する環境の充実 ・ 地区に点在する地域資源を活用するための情報発信と快適に街歩きを楽しめる歩行空間の確保 ○ 豊水通沿道の民間敷地（2か所）での高級ホテルを誘致した開発事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中島公園周辺エリアを新たに集客・交流機能や芸術・文化の強化を図る拠点として、高次機能交流拠点に位置づけ ○ 国際的・広域的な観点を持った都市機能の高度化や集積に向けて、民間活力を生かしながら、必要な都市基盤・施設の整備などを行う ○ みどり豊かな都心を形成するため、公園などにおけるみどりの整備・改善に取り組むとともに、再開発の機会を捉え、官民連携による効果的なみどりの創出をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> <環境> みどりの確保のほか、省エネ、リサイクルなど、脱炭素化に資する公園づくり <ユニバーサル> 誰もが利用しやすい公園づくり <ウォーカブル> 歩いて楽しい街づくりに資する公園づくり <防災・安全> 長く安全に利用できる老朽化対策や防災機能を一層高めた公園づくり <デジタル> デジタル技術と連携した未来型の公園づくり

2 3つの方向性と具体化に向けた検討の視点

方向性1 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める	方向性2 新たな機能により魅力を向上する	方向性3 周辺エリアも含めて活性化させる
<p>検討の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 歴史性や季節ごとの魅力の再確認 ② みどりと芸術・文化が相乗効果を生む取組 ③ 日常的な利用環境の充実と情報発信 	<p>検討の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 市民の日常利用を基本に来街者のニーズにも応える機能 ② 子どもや若者が訪れたいくなる機能 ③ 冬も魅力的で利用者を呼び込む機能 	<p>検討の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 指定管理者と周辺事業者との連携 ② 周辺事業者による公園の活用 ③ 周辺に波及させる公園の魅力向上 ④ 周辺と補完関係を築き回遊機能をも高める公園運営

3 第1回検討会の振り返り（主な意見）

① 歴史性や季節ごとの魅力の再確認 ③ 日常的な利用環境の充実と情報発信	② みどりと芸術・文化が相乗効果を生む取組	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ the中島公園はどこか。一つ目玉になるものを作り、そこを集中的にPRしてそこから回遊してもらうことも旅行者向けには重要。 ・ 昔札幌市内に多く流れていた川の痕跡がほぼ失われた中で、まちの中を流れる鴨々川が存在していることが非常に重要な景観的ポイント。 ・ 中島公園からの藻岩山の景観の維持をしっかりと行うべき。公園内だけでなく、今の建築基準法や都市計画で守れるのか、その担保が必要。 ・ 何か象徴的なものを作って宣伝していくことが、公園にとって良いとは考えていない。長岡安平の設計が多く継承されている現在の姿は貴重な財産であり、大きな方針転換ではなく、地道にできること、市民に愛されることを考えていくべき。 ・ 大きく何か派手なことをやるというよりも、これまでの歴史とか良さを引き継いでいけるようにちょっと手を入れるくらいかなという印象。 ・ 景観が良いところには人が集まる。インバウンドという視点もある。 ・ パークホテルからの風景は素晴らしい。ライブカメラがあると良い。 ・ ジョギングしやすい動線を考えてみてはどうか。 ・ パークセンターを南9条の北入口広場付近に置くべき。 ・ 記念植樹などで苗木で植えたものが大木化しており、間引きが必要。 ・ 個人旅行で訪れるような情報発信が良い。札幌の河川や池を現代に伝える貴重な公園となっているストーリーの発信なども考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園が持つブランド力を高めることが一番のメインであり、公園を訪れた人が、各施設の内容や取り組みを知り訪れるきっかけとなれば良い。 ・ 公園の中に様々な主体の建物が存在している場所であることから、公園と施設の一体的な運営は必要。 ・ 公園の面白さの一つに、予測できなかったことに出会うということもある。 ・ 豊平館などのサブコンテンツの横の連携、相乗効果を生み出す取組というのは出来ていない。 ・ 公園と各施設が絡んで公園全体として何をやっていくのかを考えるマネジメント組織が必要。中島公園地域コミュニティ推進協議会も単純に情報共有の場では良くない。 ・ 中島公園地域コミュニティ推進協議会の構成員にも今回の資料等を共有して意見を伺っておくと議論が活性化してくるのではないかと。 ・ トイレとか、飲食とか、立ち寄りとか、周辺施設も含めてどういう状況になっているのかを一回整理してみた方が良い。実際に公園を訪れた時にどういう過ごし方ができるかということがわかってくる。 ・ ポケモンゴーのイベントでは世界中の人が中島公園に来ていた。このようなARを活用したイベントを中島公園に誘致するというのも面白い。 ・ こぐま座では、多くの市民ボランティアが子どもたちのために人形劇を提供している。市民が活動する場としての可能性を考えてみてはどうか。 ・ 伊夜日子神社は公園側からも入れるようになっており、施設の一つとして入れて考えた方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南9条のところがボトルネック。民間事業者側の敷地も含めて一体となったマスタープランなりがどうしても必要。 ・ 中島体育センターの別館のような位置づけで復活させて、アリーナを持ってくると一つのランドマークになって、公園の活性化に繋がる。 ・ 市民の方が親しめる公民館や中央図書館も公園にあっても良い。 ・ ヤングアダルト世代に向けたアプローチも視点に加えた方が良い。 ・ 体育センターやテニスコートが公園におしりを向けているのは、改善の余地がある。

◆検討のスケジュール

令和5年11月02日 第1回検討会 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める	令和6年 3月上旬 第3回検討会 周辺エリアも含めて活性化させる	令和6年秋頃 第5回検討会 中島公園魅力アッププラン（素案）の検討	令和6年年度中
令和5年12月18日 第2回検討会 新たな機能により魅力を向上する	令和6年 4月以降 第4回検討会（仮）議論を踏まえた取組の方向性	令和6年冬頃 第6回検討会 中島公園魅力アッププラン（案）の検討	★とりまとめ

1.市民の日常利用ニーズを基本に来街者ニーズにも応える機能

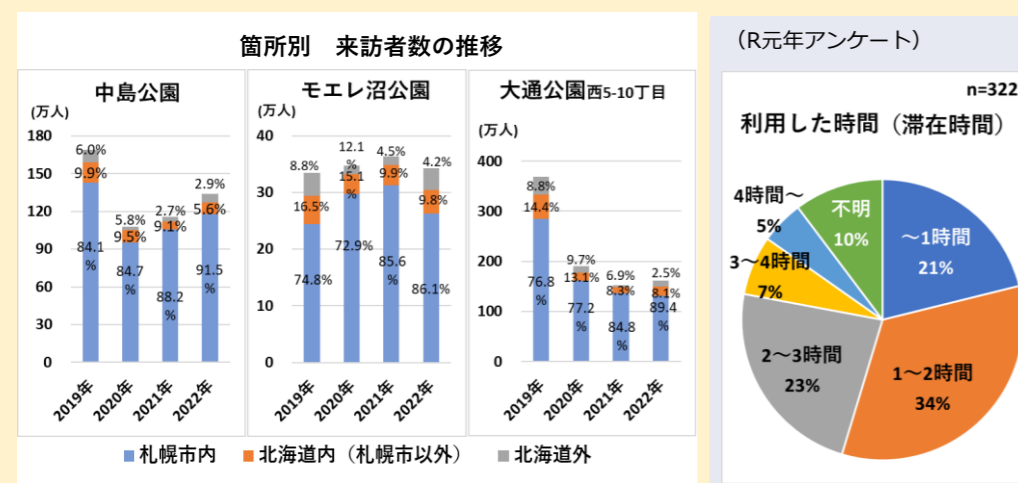
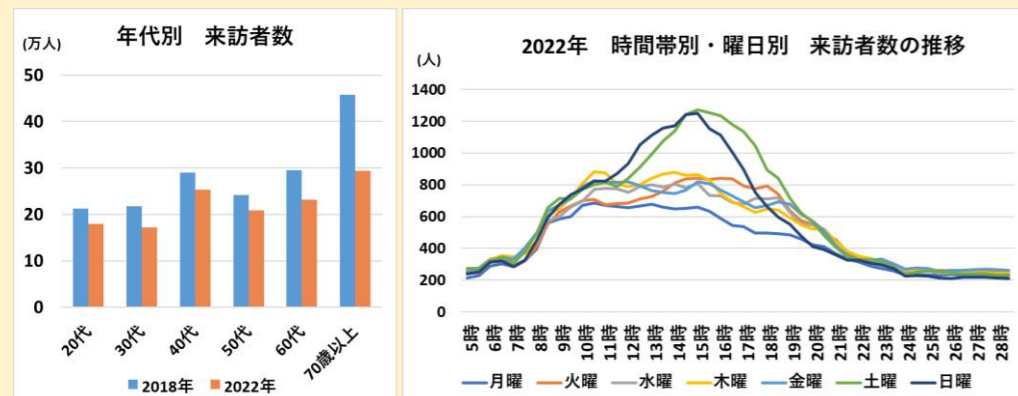
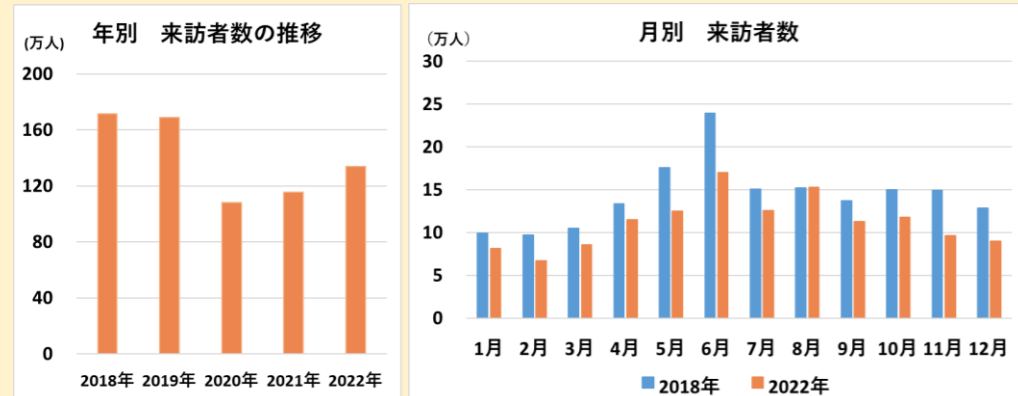
1-1.市民・来街者のニーズ

▶来訪者の状況 (出典：KDDI Location Analyzer※、R元年利用者アンケート)

- ・コロナ前は推計値で年間170万人前後が来訪。コロナ禍は100万人台に減少するも、徐々に回復傾向
- ・月別ではさっぽろまつりの6月が最も多く、冬場は夏場の2/3程度となる
- ・年代別では20～30代の利用が少なく、70歳以上が多い
- ・曜日に関わらず、朝6時ごろ一時的に来訪者が多くなり、その後、平日は9時ごろから19時ごろにかけて一定数訪れる
- ・土日は14時から16時ごろにピークを迎え、その数は平日の1.5倍ほど
- ・地域別では約9割が札幌市民で、市外からの来訪者は1割程度
- ・滞在時間は1～2時間が多い

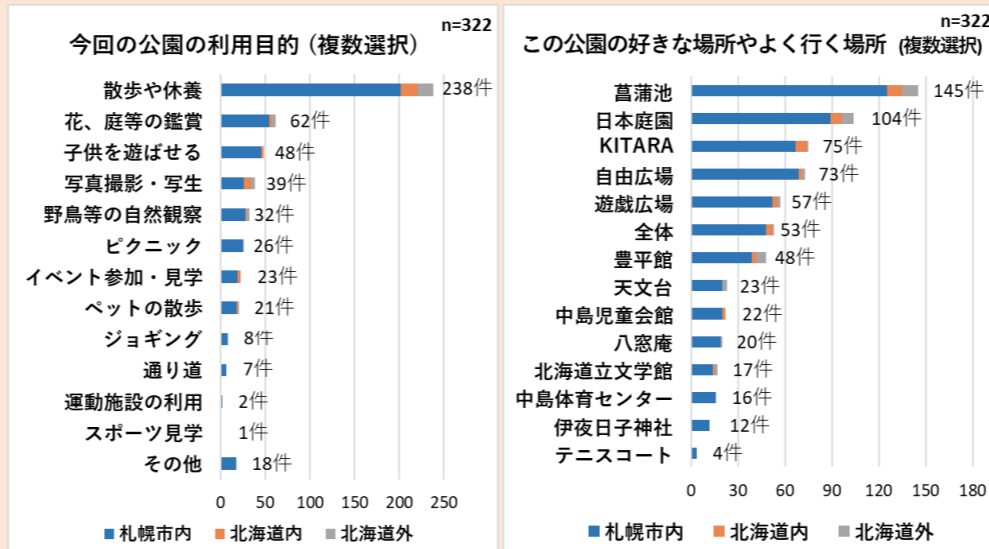
※KDDI Location Analyzer
auスマートフォン契約者の位置情報(位置情報の利用許諾を得たユーザーの情報のみ)を拡大推計したデータを用いたセルフデータ分析ツール

(KDDI Location Analyzer)



▶アンケート(R元年)から見る利用の状況

- ・利用目的は、**散歩や休養での利用者が最多**
- ・公園の好きな場所やよく行く場所は、**菖蒲池、日本庭園が多い**



▶届出及び申請から見る利用の状況

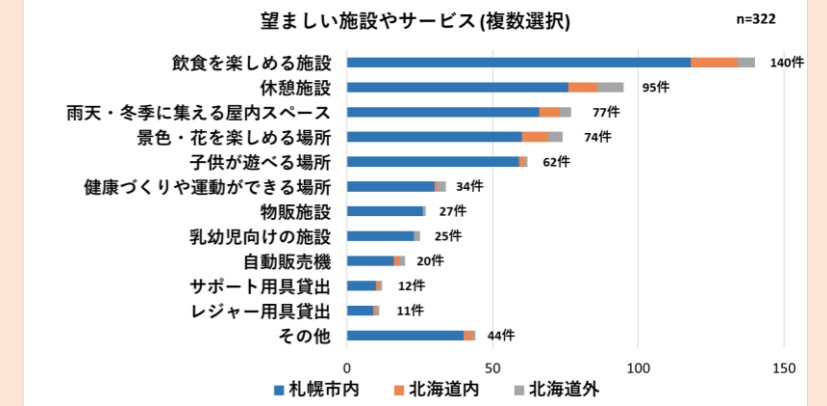
- ・R4年度(n=601)は、**商用写真撮影等の景観利用**を目的としたものが最も多く、続いて幼稚園小学校の遠足等の教育目的の利用、スポーツイベント等の健康・レクリエーション利用の順で多かった
- ・利用は企業が約7割を占め、中でも**写真スタジオ関係の企業が最多**
- ・写真や動画撮影での利用は**5月と10月**が多く、桜や紅葉などの景観を求めて利用されていると考えられる



利用目的	詳細例
景観利用	前撮り撮影、ブライダル撮影、ドラマ撮影、CM撮影
教育・子育て	遠足、校外学習、季節の生き物探し、卒論研究
健康・レクリエーション	クライミングイベント、笑いヨガ、シットスキー、特殊スポーツの普及
ゴミ減量化・リサイクル推進	フリーマーケット
文化伝承・芸術文化活動	ピアノ発表会、音楽レッスン兼ピクニック、屋外人形劇、灯籠流し
情報発信・観光振興	テレビ撮影、取材、観光名所のPR動画撮影
環境維持活動	植栽・清掃活動、営巣調査、樹木病害標本の採取
その他	施設管理、選挙、工事、彫刻の清掃

▶利活用のニーズ

- ・公園来訪者へのアンケート(令和元年10月)では、望ましい施設やサービスとして「**飲食を楽しめる機能**」が最多、次に「休憩施設」「雨天・冬季に集える屋内スペース」「景観・花を楽しめる場所」「子供が遊べる場所」が多かった。



▶観光動向

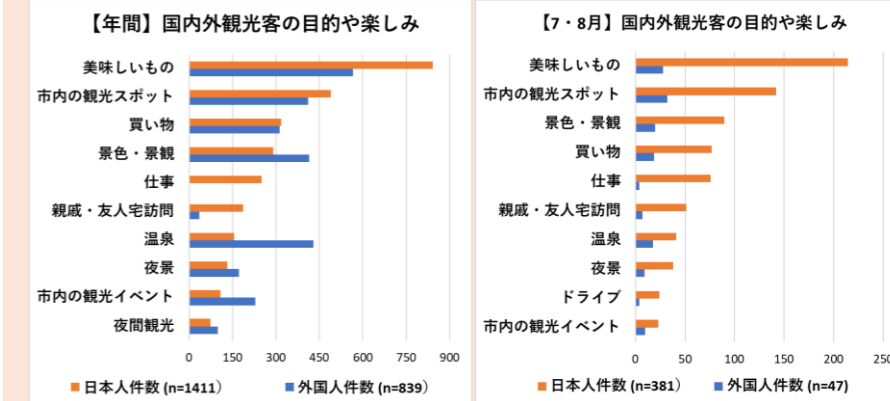
■サステナブルな旅※に対する意識の世界的な高まり (booking.com)

- ・世界の旅行者と日本の旅行者の多くが、「**よりサステナブルな旅行**をすることは**自身にとって重要である**」と回答

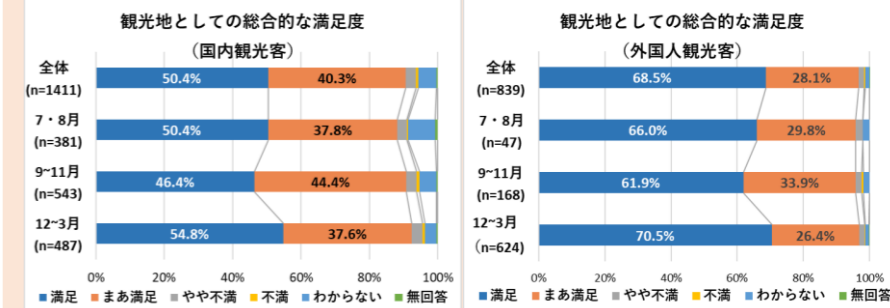


■札幌滞在中の目的や楽しみ

(令和4年度新千歳空港における観光客動態調査報告書)



- ・国内観光客は、年間を通して「**美味しいもの**」が最も多く、**外国人観光客は、市内の観光地や景色・景観**などを目的に訪れる人も多い
- ・夏季は「**景色や景観**」を楽しみに訪れる人の割合が増える
- ・観光地としての総合的な満足度は、**国内外観光客ともに冬季が高くなる傾向**がみられる



1. 市民の日常利用ニーズを基本に来街者ニーズにも応える機能

1-2. 市民・来街者のニーズに応える機能

▶施設・機能の状況

<案内機能>



- 案内板・誘導サインが見づらく、歩行者が気づきにくい
- 誘導サインは、二カ国語標記と五カ国語標記が混在している

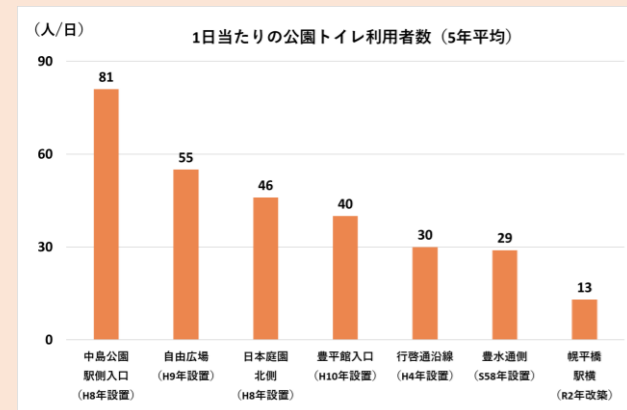
<公園のトイレ>



▲中島公園駅側入口 ▲豊平館入口

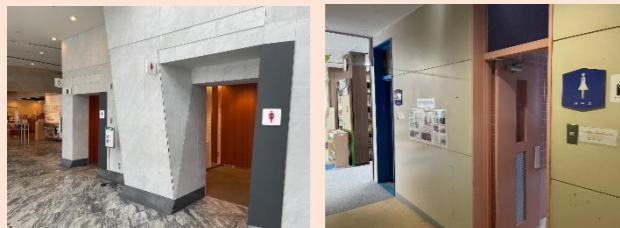


▲豊水通側 ▲幌平橋駅横



・新旧トイレが混在。利用頻度に差がある。
※男子トイレを頻りに更新(女子トイレの利用は少ない)

<その他のトイレ>



▲Kitara内トイレ ▲児童会館内トイレ
※文学館・体育センターの使用も可能
※天文台は一般貸出なし・豊平館は有料スペース内

<みどり>

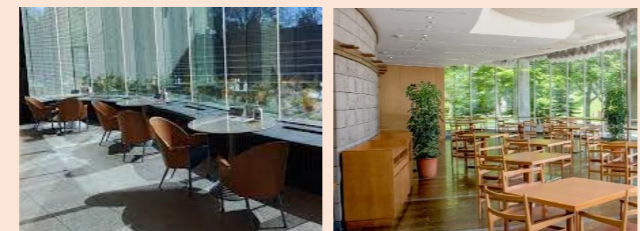


- ▲藤棚があるが見づらい
- ▲樹林に被圧される桜
- 樹木の繁茂で視認性が妨げられている
- 主要園路沿いの桜は状態が悪く、周囲の樹木からの被圧もみられる

<飲食機能>



▲自動販売機(園内3か所) ▲喫茶室ハルレコレ(豊平館)
営業時間: 11時~15時
定休日: 毎月第2火曜日
飲み物・軽食
別途入場料必要



▲オアシス1(文学館喫茶・休憩コーナー) ▲テラスレストランキタラ
営業時間
夏季: 10時~16時
冬季: 11時~16時
飲み物・軽食
カフェ利用以外でも使用可
営業時間
公演あり: 11時半~19時
夜間公演のみ: 15時~19時



▲中島体育センター内自動販売機 ▲食堂(花月)
開館時間: 9時~21時
休館日: 第4月曜日
営業時間: 11時半~22時半
定休日: 不定休(悪天候の日はお休み)

- 各施設の飲食店は、施設の訪問者以外が訪れにくい雰囲気や敷居が高い印象
- 食堂(花月)は、一定の利用者が見られるが、老朽化が進んでいる

<貸しポート乗り場>



▲貸しポート乗り場

- 営業期間: 4月下旬~10月上旬
- 営業時間: 9時から17時
- 料金: 1艘40分 600円

<公園管理事務所>



▲公園管理事務所



▲公園管理事務所(園路左側)

■施設の現状・更新について

- 民間事業者所管の施設
- 明治時代からポート及び食堂を代々営業してきた
- 公園用地取得の際に移転補償によって自宅は公園外に移転、ポート及び食堂の営業は引き続き認めた
- 今後の営業については、適宜事業者側と協議している
- 原則、営業終了後は更地にして本市へ返却することとしている
- 施設は現時点で築50年超

■施設の現状・更新について

- 平成8年開設(築27年)
- 平成29年公園施設長寿命化計画においてB判定
- 入口がわかりにくく、認知されていない

▶パークセンターの事例

○月寒公園のパークライフセンター

- 管理事務所兼屋内施設で、休憩スペース・売店・授乳室・キッズスペース等がある
- 公園利用のインフォメーション・ガイダンス機能を担っている(公園で見られる動植物等の展示)
- 運動施設の受付・道具のレンタルを行っている
- 売店では地域のお菓子、公園で楽しめるグッズなどを販売
- 不定期でクラフト教室などを開催
- 地域のボランティア活動の拠点として活用されている



▲情報展示スペース



▲クラフト教室

(出典: 月寒公園HP)

▶植栽管理の新たな手法(事例)

○小布施総合公園(長野県)

自治体の発注担当者・専門家・指定管理者が当初の目標景観や空間構成を共有したうえで、公園内を共に巡回して植栽・景観の現状を確認し、植栽管理方針を立てて、計画的に植栽管理を行っている。また、現場での植栽管理指導も行い、良好なみどりと景観の向上につなげている。



▲池と四阿の見通しを阻害していた四阿周りのドウダンツツジを撤去し、水辺の見通しを開放した

(出典: 都市公園における植栽管理監修による効率的植栽管理手法(株)愛植物設計事務所)

▶国内外の観光客向けの施設(事例)

○浜離宮恩賜庭園(東京都)

歴史と伝統のある施設で、特別感を演出しながら、会議やイベント、レセプション等のユニークなニュー事業の開催が可能



▲浜離宮恩賜庭園 ▲日本文化の発信イベント会場として特別に夜間開放

(出典: 東京都公園協会「公園へ行こう!」/ TOKYO Unique Venues)

課題

- 若者、冬、来街者の利用者が少なく、滞在時間も短い傾向にある
- 利用者のニーズに応える機能の不足
- 利用しづらい飲食等の施設
- 来街者への案内やサービスの不足
- 樹木が混み合い、状態が悪い

考察

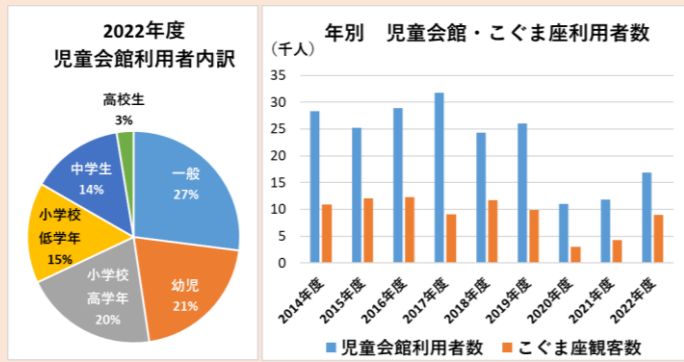
- より日常利用しやすい機能、滞在時間を延ばす機能とは何か
- 誰もが利用しやすく、中島公園に合う飲食施設とは何か
- 市民にも来街者にも利用されるパークセンターとはどういったものか
- 魅力的な景観を利用者により感じてもらえる樹木管理とはどういったものか
- 民間事業者をどのように活かしていくか

2.子どもや若者が訪れたいくなる機能

▶子ども・若者が楽しめる機能

■ 児童会館・こぐま座のイベント

- ・日常利用 幼児親子～小学生対象の各月の行事（読み聞かせ、工作等）／人形劇の上演（土日祝）
- ・年に数回 あおぞらキッズシアター
- ・年に1回 かもくま祭（開館記念日祭り）／ピクニックシアター（園内4カ所に小規模な舞台を設置）／野外人形劇（ゆきあかりとタイアップ）



■ 遊具設置状況・他子どもの遊び場

1～4（児童会館前）

- ・児童会館の室内利用と一体的に利用されている
- ・4は一部部品が破損状態
- ・遊具のある公園が周辺になく、地下鉄で遊びに来る人もいる

5（鴨々川水遊び場前）

- ・水遊び場Aは、公園のメイン部分と道路で分断されている
- ・5の利用者は少ない



■ 若者が楽しめるイベント

- ・さっぽろまつり
- ・さっぽろ焼き芋テラス
- ・くつろぎ VILLEGE
- ・さっぽろランタンフェス
- ・Pokémon GO Fest

▶若者にも利用される公園事例

○北彩都ガーデン(旭川市) 食ベマルシェ期間に、カヌー、乗馬、SUPなど、普段まちなかで体験できないアクティビティ体験を実施



○井の頭公園(東京都) 吉祥寺駅に近く、ボート、野外ステージ、カフェ、ピクニックのできる芝生広場、ジブリ美術館など施設が充実している



(出典：北海道新聞/関東公園ガイド パークナビ)

3.冬も魅力的で利用者呼び込む機能

▶冬の利用状況



▶積雪地域の公園活用事例

- 岩手県営運動公園 家族参加を対象とした雪像コンテストや宝探しゲーム等の実施
- 藤島歴史公園(山形県) イルミネーション点灯式の際に音楽フェスやプロジェクションマッピングを実施
- プレーパークさっぽろ (公財)札幌市公園緑化協会が、複数の公園の活動団体と協力しプレーパークを実施



(出典：各公園HP/札幌市公園緑化協会HP)

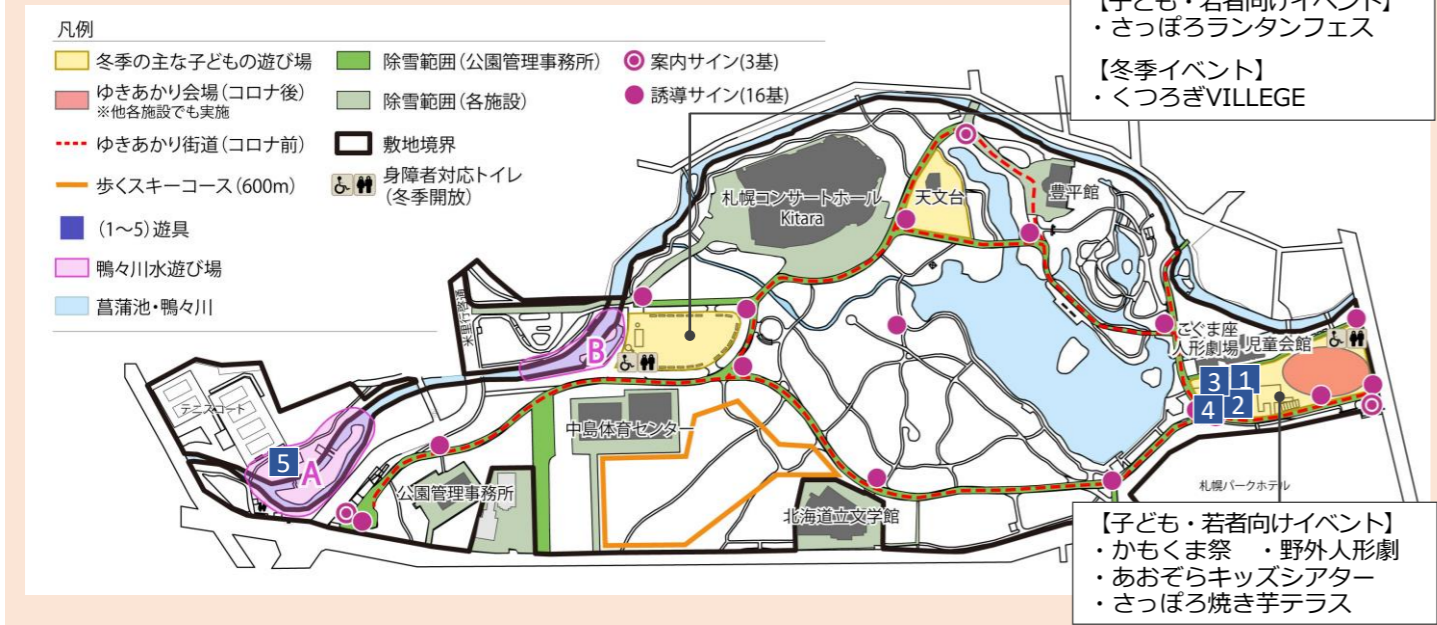
▶冬の景観・屋内施設の事例

- 雪吊り(兼六園) 樹木を雪の重みから守るための独特な技法で、1月～2月にライトアップされる
- ・凍った池や雪をかぶった灯籠など、雪景色の魅力を積極的に公式HPで発信
- はれっば(南幌町中央公園) アクティブゾーンや木育ゾーンなど、幼稚園児から小学校高学年まで楽しめる遊具の設置
- ・休憩エリアには電源やWi-Fiが完備され、カフェも併設されている



(出典：兼六園HP/はれっばHP)

▶各配置図



▶民間活力導入事例

- 恵庭ふるさと公園(恵庭市) Park-PFIによりコミュニティスペースを併設したカフェ及び駐車場等を整備。近隣の大学生や遠方から来園者も増加し、多様な世代の交流の場となっている
- ・公園内で開催される地域イベントと連携し、子ども対象のクラフトアート講習会や限定メニューの提供などに取り組むことで、にぎわいの拠点として機能を果たしている
- ・樹木調査を行い、専門家を交えたワークショップで整備の方向性を議論している



(出典：園内カフェHP/恵庭市HP)

課題

- 長時間の滞在を楽しめるような機能が不足している
- 児童会館・こぐま座・遊具・自然といった恵まれた条件を活かした取組が不足している
- イベント以外に若者が訪れたいくなる機能は特に考えられていない
- 冬の公園を日常的に利用するための施設や取組の不足

考察

- 一年を通して長時間の滞在を可能とするために必要な施設や取組とは何か
- 公園の施設と連携し、相乗効果による遊びを生む機能とはどういったものか
- 若者が訪れるための新たな機能とは何か
- 冬場の景観も含めた魅力づくりとはどういったものが考えられるか